



あけまして、おめでとうございます。
本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

今年は巳年です。「巳」を動物にあてはめると「蛇」になりますが、蛇は、古くから神の使いとして信仰されてきました。古い皮を脱ぎ捨て新たな姿に生まれ変わる蛇からは「再生」や「永遠」が想起されます。

辯天宗の宗祖様は辯天様のご神託を受けられましたが、その辯天様（水の女神、美と智恵と音楽の女神）の使いも蛇です。なかでも白蛇は辯天様の化身として、豊かさをもたらす高貴で神聖な存在として扱われてきました。

ところで、昨年11月には、智辯学園奈良カレッジ創立20周年記念式典を無事に終えることができました。いろいろな方々から祝福していただき、本校は、本当に多くの方々に支えられて今日があるのだということを改めて実感することができました。皆様のご支援に心から感謝している次第です。

そこで、今年は、新たなステージへ飛翔する「再出発」の年としたいと考えています。そういう意味でまさに巳年はふさわしい年といえます。

本年4月（来年度）から新しい教育課程のもと40分授業を開始します。児童たちが学びを深め、充実した学校生活を送れるように、いろいろと創意工夫しながら学校教育を推進していこうと考えておりますので、保護者の皆様にはご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

また、学校において3学期というのは、1年のまとめをする大切な時期であるとともに、新しい学年度に向けての準備の期間でもあります。そういう大切な期間でありながら、とても短くて、意識的に過ごさなければ、あっという間に終わってしまう学期です。2月には文化祭があり、それに向けての準備がそろそろ始まります。6年生は、文化祭の後にはすぐに修学旅行。それが終われば卒業式と3学期の後半は瞬く間に時間が過ぎ、気がつけば中学部の入学式ということになってしまいかねません。

どの学年の児童も現学年の仕上げと次学年への準備に心を引き締めて取り組まねばなりません。2学期末の個別面談での話をもとに、それぞれの児童がしっかりと課題や目標をもってこの3学期を充実した有意義な時間にしてもらえるように、私たち教職員も力を尽くすつもりです。ご家庭でも児童たちをしっかりと励ましてやってくださいようお願いいたします。



1月～2月の学校行事

月	日	曜	行 事	月	日	曜	行 事
1月	17	金	感謝祭	2月	1	土	2次入試（児童は家庭学習日）
	18	土			2	日	
	19	日	6年生実力テスト （1～5年生は家庭学習日）		3	月	
	20	月	1/19の振替休日		4	火	
	21	火			5	水	カレッジツアー
	22	水			6	木	
	23	木	修学旅行説明会（6年生）		7	金	
	24	金	いじめアンケート		8	土	（週休日）感謝祭・文化祭
	25	土	漢字検定（希望者）		9	日	
	26	日			10	月	2/8の振替休日
	27	月			11	火	建国記念の日
	28	火	中学部進学手続き（6年生）		12	水	
	29	水			13	木	
	30	木			14	金	
	31	金	午前授業（土曜校時）		15	土	高等部卒業式 （児童は家庭学習日）
2月					16	日	

※1月31日（金）は入試準備のため4限授業とし、昼食をとった後下校します。（キッズの預かりは13時から実施します。）

※2月8日（土）は週休日ですが、感謝祭・文化祭を実施します。そのため2月10日（月）を振替休日とします。

※2月15日（土）は、高等部卒業式のため、児童は家庭学習日とします。

なわとび検定

体育の授業でなわとび検定が始まります。
児童たちは1つでも級を上げようと一生懸命練習しています。
小学校卒業までに「目指せ名人！」



春のカレッジフェスタについて

3月1日（土）、本校に関心をお持ちの方を対象に春のカレッジフェスタを実施します。奈良カレッジ小学部を体感できる企画満載の1日です。楽しいイベントやコーナーを用意しています。詳細は本校ホームページやチラシをご覧ください。できるだけ多くの人にこのイベントをご紹介いただけると幸いです。

（詳細は右のQRコードのページに記載しています。）



コンクール受賞作品の紹介

令和6年度「少年の主張（香芝市）」で優秀賞を受賞した5年2組大林莉々果さんと、「第70回青少年読書感想文奈良県コンクール」で毎日新聞社賞を受賞した3年2組松井心花さんの作品を紹介します。

A I と共に生きる

5年2組 大林 莉々果

毎年夏休みになると、読書感想文の宿題がでる。私は読書感想文の宿題が好きだ。普段は学校があるので、いろいろな本に興味がある私は一冊の本をゆっくり読むのではなく、読みたい本をあれこれ夢中になって読むので忙しい。でも、夏休みは時間があるので、ゆっくり一冊の本と向き合って、本の内容と自分のことを考えたりしながら読むことができる。そして、それを文章にまとめることは、大変だけれどとても楽しい。

今の時代は、c h a t G P Tのような生成A Iの登場で文章を簡単に作ることができるようになった。もしかしたらそれを使って自分で考えずに宿題をやったことにする人が出てくるかもしれない。去年の夏休み前に、ニュースで読書感想文をc h a t G P Tが書くとどんな文章ができるのかをやっていた。たった数秒でc h a t G P Tは原稿用紙二枚分の文章を書き上げていたのをみてすごいと思った。でも、私は読書感想文をたくさんの時間を使って書くので、どうしてこんな生成A Iを作ったのだろうと嫌な気持ちにもなった。生成A Iについて何も知らない私は、ただずるができる機能だと思っていたけれど、お父さんに

「使ったこともないのに悪いと決めないで、一回使ってみたら。何でも使い方次第だよ。」

と言われたので、使ってみることにした。すると、本当に一瞬で答えを出してくれて感動した。質問を繰り返していくと、どんどん知らないことを教えてくれる。教えてくれたことを自分でも調べてみると、また世界が広がった気がした。c h a t G P Tは文章だけではなく、絵も描いてくれる。私が描いた時には自分の思ったような絵にはならなかったから、本当にすごいと思った。調べてみると、生成A Iには絵が得意なものと、文章が得意なものがあることも分かった。なんだかもう一人のお父さんお母さん、先生みたいだなと思った。

使ってみて分かったことは、生成A Iは次から次へと知識やアイデアを広げてくれるとても便利なものだということだ。でも逆に、使い方を間違えてしまうと人間が自分で考えることから逃げてしまうというところに問題があるのだと思う。そして、生成A Iに頼ることが当たり前になってしまうと、それが本当に正しいかどうかを確かめることをしなくなって、全部信じてしまうという危険もある。

私たちが生きていく社会では、今あるもの以上にいろんな種類のA Iと共に生きていかないといけない。だから、早いうちからA Iについて勉強し、A Iと友達になることが大切なのだと思う。それは、人間同士の友達作りともよく似ていると思う。まずは相手を知ろうとして、積極的に関わる、誰にだって、良いところも悪いところもあって当然なので、仲良くできればもっとお互いに成長できる気がする。「なぜ」「どうして」と疑問に思ったことがあれば、これからどんどん質問していこうと思う。A Iと仲良くなって新しい気づきや学びをふやしたい。もっと人生を豊かにしたいと思う。

しゅくだいクロールを読んで

3年2組 松井 心花

この本は、主人公のしょうたという男の子が、引っ越しをする事になり、生まれ育った町で、さい後の夏の思い出を作るために、学校の水泳大会でリレーのせん手としてちょうせんするお話です。でも、しょうたは一年生の夏に遊園地のプールでおぼれたことがあり、水がこわくて泳ぐことができません。泳ぐのがとくいな親友のかおるに毎日教えてもらい、クロールで二十五メートルを泳げるようになります。しかし、本番でとびこむ時、水をたくさん飲んで息苦しくなってしまう、なんとかラッコ泳ぎでゴールするも、クラスはビリというけっかになったけれど、さい後まで泳ぎきったしょうたを、みんなは自分のことのようによろこんでむかえてくれました。

まず、しょうたが、短い期間でたくさんのことを学び、苦しみ、どかしクロールが出来るようになった事がすごいと思いました。わたしは、今年の四月に水泳を習いはじめました。さいしょは、しょうたと同じように、水に顔をつけるのも苦手でした。しかし、ビート板やヘルパーを使ってバタ足の練習や息つぎの練習を重ね、じゅん調に級が上がるにつれて泳ぐ事がとても楽しくなりました。ところが、ヘルパーなしのクロールで苦せんしています。しょうたと同じように、”水をかきながら息つぎをする”このリズムをつかむことがとてもむずかしくて、息つぎのたびに口と鼻に水が入り、体もしずむため、すぐに足をついてしまうようになりました。そのため、上手く泳げない事へのふ安が大きくなり、水泳をやめたいと思うようになっていたからです。本の中でしょうたは、水泳大会当日に、とびこみをしっばいしてしまい、泳げるようになっていたクロールが出来なくなります。それでもなんとかラッコ泳ぎでゴールしました。

しょうたはさい後まであきらめず、クラスみんなや先生、かおるのために泳ぎつづけるすがたにわたしは心を動かされました。息つぎが上手くできずに水泳をやめたいと思っていた自分が、とてもはずかしくなりました。しょうたのように、どんな泳ぎであっても、あきらめなければ前に進めるということを知りました。わたしも、と中であきらめるのではなく、このこころのかべをのりこえたいと思います。

わたしはこの本を読んで、しょうたからたくさんのゆう気と元気をもらいました。また、さい後まであきらめずにがんばること、おうえんしてくれるみんなのためにがんばることの大切さも教えてもらえたと思います。

これからは、たくさん練習を重ね、どかし、コーチやいつでもどんなときでもおうえんしてくれる両親にかっこいいすがたを見せていきます。

しょうた、ありがとう。

コンクール受賞者発表

児童の作品が、第72回檀原神宮席上揮毫書き初め大会で受賞しました。誠にありがとうございます。

準特選 1年2組 江藤 零深（えとう れいみ）
6年1組 島本 寧々（しまもと ねね）

優秀 3年1組 松下 詩歩（まつした うたほ）
5年1組 和田 一希（わだ かずき）

